

【財務会計編】

問題 1 以下の文章は、ある一般原則について述べている文章である。当該一般原則の名称として適切なものを、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各 2 点×2 問＝4 点）。

1. 企業の財政に不利な影響を及ぼす可能性がある場合には、これに備えて適当に健全な会計処理をしなければならない。

この一般原則は、（ 1 ）の原則と呼ばれている。

2. 株主総会提出のため、信用目的のため、租税目的のため等種々の目的のために異なる形式の財務諸表を作成する必要がある場合、それらの内容は、信頼しうる会計記録に基づいて作成されたものであって、政策の考慮のために事実の真実な表示をゆがめてはならない。

この一般原則は、（ 2 ）の原則と呼ばれている。

〔 1 の選択肢〕

1. 明瞭性 2. 費用配分 3. 総額主義 4. 保守主義 5. 正規の簿記

〔 2 の選択肢〕

1. 真実性 2. 単一性 3. 継続性 4. 実現主義 5. 経理自由

問題 2 農業協同組合法会計に関する以下の文章のうち、空欄（ 3 ）と（ 4 ）に入れるべき最も適切な用語を、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各 2 点×2 問＝4 点）。

農業協同組合法会計の目的は、外部の利害関係者に対して、財務諸表を用いて経営成績と財政状態（及び資金状態）を明らかにすることにある。

農業協同組合および農業協同組合連合会は、決算に係る総会終了後 2 週間以内に、貸借対照表・損益計算書・剰余金処分計算書又は損失金処理計算書等を記載した（ 3 ）を行政庁に提出しなければならない。

（ 4 ）は、事業報告・貸借対照表・損益計算書・剰余金処分案又は損失処理案を作成しなければならない。

〔 3 の選択肢〕

1. 附属明細書 2. 個別注記表 3. 業務報告書
4. 売上計算書 5. 確定申告書

〔 4 の選択肢〕

1. 株式会社 2. 一般財団法人 3. 農事組合法人
4. 学校法人 5. 任意組合

問題 3 委託販売に関する収益認識基準に関する以下の文章のうち、空欄（ 5 ）と（ 6 ）に入れるべき最も適切な用語を、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各2点×2問=4点）。

委託販売に関する収益認識については、受託者が委託品を販売した日（精算書又は売上計算書の日付）をもって売上収益実現の日とする「受託者販売日基準」が原則的な収益認識基準である。但し、一定の条件を充たす場合には、精算書又は売上計算書が到達した日をもって売上収益の実現の日とみなす「（ 5 ）基準」を採用することができる。

なお、農協を通じて出荷する米や麦、大豆などの農産物については、受託者が委託品を販売した日を認識することができないため、必然的に「（ 5 ）基準」が採用されることになるが、最終精算が出荷した年の翌年又は翌々年になる場合も想定され、「（ 5 ）基準」の採用が必ずしも適切ではない場合が考えられる。このため、農協を通じて出荷する米や麦、大豆などの農産物については、その特殊性に鑑み、概算金、精算金をそれぞれ受け取った日をもって売上収益の実現の日とする「（ 6 ）基準」を採用することもできる。

〔 5 の選択肢〕

- | | | |
|-------------|------------|-------|
| 1. 売上計算書到達日 | 2. 回収期限到来日 | 3. 回収 |
| 4. 正常営業循環 | 5. 給付算定式 | |

〔 6 の選択肢〕

- | | | |
|--------|------------|--------|
| 1. 約定日 | 2. 概算金等受領日 | 3. 収穫日 |
| 4. 検収日 | 5. 修正受渡日 | |

問題 4 日本ビジネス農場（決算日：12月31日）における某農作物に関する情報は以下のとおりである。これにより、空欄（ 7 ）と（ 8 ）に入れるべき正しい日付を、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各2点×2問＝4点）。

X1年2月10日：某農作物5tを3,000千円で販売する契約を販売先と締結した。

X1年2月25日：某農作物5tを当農場の敷地から収穫した。

X1年2月26日：某農作物5tを販売先への運送をA運送業者に依頼し、出荷した。

X1年2月27日：某農作物5tが販売先に到着した（納品された）。

X1年2月28日：某農作物5tに関する販売先からの検収完了通知を受領した。

X1年3月31日：某農作物5tに関する販売代金が当農場の普通預金口座に入金された。

上記において、収穫基準を採用した場合の売上計上日は（ 7 ）であり、また、検収基準を採用した場合の売上計上日は（ 8 ）である。

〔 7 の選択肢〕

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 2月10日 | 2. 2月25日 | 3. 2月26日 |
| 4. 2月27日 | 5. 2月28日 | |

〔 8 の選択肢〕

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 2月25日 | 2. 2月26日 | 3. 2月27日 |
| 4. 2月28日 | 5. 3月31日 | |

問題 5 日本農業株式会社は、同じ町内の農家であるAとの間で、特定作業受託契約を締結して、A所有の農地について基幹三作業のすべてを受託している。また、そこから得られる収穫物を自己の名義で販売し、その販売代金から、農作業受託料と販売手数料を差し引いた残額を精算金としてAに支払っている。

次の〔資料〕に基づき、日本農業株式会社の×1年産米に関する仕訳（単位：円）の空欄（ 9 ）にあてはまる勘定科目と、空欄（ 10 ）にあてはまる金額について、それぞれ各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい。なお、販売代金の授受及び精算金の支払は、販売日において現金により行われている（各2点×2問=4点）。

〔資料〕

販売代金：1,000,000円

農作業受託料：400,000円

販売手数料：50,000円

（借方）現 金 1,000,000 （貸方）製品売上高 1,000,000

（借方）（ 9 ） （ 10 ） （貸方）現 金 （ 10 ）

〔 9 の選択肢〕

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1. 圃場管理費 | 2. 製品売上原価 | 3. 前受金 |
| 4. 作業受託収入 | 5. 出資金 | |

〔 10 の選択肢〕

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 400,000 | 2. 450,000 | 3. 550,000 |
| 4. 600,000 | 5. 650,000 | |

問題 6 以下の文章中の空欄（ 11 ）～（ 12 ）にあてはまる勘定科目として最も適切なものを、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各2点×2問=4点）。

株式会社が株式会社以外の会社等に出資を行った場合、その支出額は（ 11 ）勘定を用いて会計処理を行う。これに対して、農事組合法人が農業協同組合や株式会社以外の会社等に出資を行った場合、その支出額は（ 12 ）勘定を用いて会計処理を行う。

〔 11 の選択肢〕

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 引出金 | 2. 資本金 | 3. のれん | 4. 引当金 | 5. 出資金 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

〔 12 の選択肢〕

- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 1. 売買目的有価証券 | 2. 関係会社株式 | 3. 現物出資 |
| 4. 外部出資 | 5. その他有価証券 | |

問題 7 当社における退職給付会計に関するデータは以下の〔資料〕のとおりである。これに基づき、次の文章の空欄（ 13 ）と、（ 14 ）にあてはまる金額について、それぞれ各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各 2 点×2 問＝4 点）。

〔資料〕

1. 当社は従業員非拠出の確定給付企業年金制度を採用している。
2. 期首の退職給付債務の金額は 80,000 千円、期首の年金資産の金額は 55,000 千円であった。
3. 当期の勤務費用は 5,200 千円と計算された。
4. 割引率は 4.5%、長期期待運用収益率は 4.0%とする。
5. 当期の年金基金への拠出額は 6,000 千円、年金基金からの年金支払額は 2,400 千円であった。

当期末の貸借対照表における退職給付引当金の計上額は、（ 13 ）千円である。
また、当期の損益計算書における退職給付費用の計上額は、（ 14 ）千円である。

〔 13 の選択肢〕

1. 23,200 2. 24,000 3. 25,600 4. 27,800 5. 28,000

〔 14 の選択肢〕

1. 4,400 2. 5,500 3. 6,600 4. 7,700 5. 8,800

- 問題 8** 以下の〔資料〕に基づいて、キャッシュ・フロー計算書（営業活動におけるキャッシュ・フローの小計まで）を作成した場合の空欄（ 15 ）～（ 17 ）の金額について、それぞれ各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい（各 2 点×3 問＝6 点）。

〔資料〕

借方	前期末	当期末	貸方	前期末	当期末
売上債権	600	660	仕入債務	400	430
棚卸資産	400	360	未払給料	50	40
前払営業費	100	80			

借方	金額	貸方	金額
売上原価	3,300	売上高	5,600
給料	900		
営業費	700		
減価償却費	200		
当期純利益	500		
合計	5,600	合計	5,600

キャッシュ・フロー計算書（一部）

- ・営業活動におけるキャッシュ・フローを直接法によって作成した場合（単位：千円）

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業収入	?
原材料及び商品の仕入れによる支出	(15)
人件費の支出	△910
その他の営業支出	△680
小計	?

- ・営業活動におけるキャッシュ・フローを間接法によって作成した場合（単位：千円）

営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前当期純利益	500
減価償却費	200
売上債権の増減額	(16)
棚卸資産の増減額	?
仕入債務の増減額	?
前払費用の増減額	?
未払費用の増減額	?
小計	(17)

〔 15 の選択肢〕

1. △3,200 2. △3,230 3. △3,250 4. △3,260 5. △3,300

〔 16 の選択肢〕

1. △80 2. △70 3. △60 4. 60 5. 70

〔 17 の選択肢〕

1. 700 2. 720 3. 725 4. 730 5. 740

問題 9 日本ビジネス任意組合（組合員 10 名の集落営農組織）に関する一連の取引について、以下に示す（ 18 ）～（ 20 ）の金額について、それぞれ各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい。なお、税金については考慮しなくてよい（各 2 点×3 問＝6 点）。

〈第 1 年度〉

1. 集落営農組織である大原任意組合の設立にあたり、経営参加面積に応じた出資金合計 8,000,000 円が、大原任意組合の普通預金口座に入金された。
2. J A から 12,000,000 円の借入を行い、大原任意組合の普通預金口座に入金された。
3. 機械装置 10,800,000 円を購入し、代金は大原任意組合の普通預金口座から支払った。
4. 種代 270,000 円および肥料代 540,000 円につき、大原任意組合の普通預金口座から支払った。
5. 期末仕掛品棚卸高（未収穫農産物）810,000 円を計上した。

第 1 年度末の貸借対照表における現金及び預金（普通預金）の計上額：（ 18 ）千円

〈第 2 年度〉

6. 農産物の仮渡金または精算金合計 21,600,000 円を受け取り、大原任意組合の普通預金口座に入金した。これに関する売上計上額の内訳は、水稻売上高 19,440,000 円、小麦売上高 2,160,000 円であった（受け取り時に売上計上する方式によっている）。
7. 肥料代 540,000 円、農薬費 810,000 円および諸材料費 6,480,000 円につき、大原任意組合の普通預金口座から支払った。
8. J A からの借入金の一部 1,800,000 円を返済した（大原任意組合の普通預金口座から支払い）。
9. 農業機械のオペレーターとして従事している組合員に対して、賃金 7,560,000 円を普通預金口座から支払った。
10. 期末仕掛品棚卸高（未収穫農産物）864,000 円を計上した。
11. 機械装置の減価償却費 2,160,000 円を計上した（直接法）。

第 2 年度末の貸借対照表における機械装置の計上額（帳簿価額）：（ 19 ）千円

第 2 年度の損益計算書における当期純利益の金額：（ 20 ）千円

[18 の選択肢]

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 8,039,000 | 2. 8,330,000 | 3. 8,390,000 |
| 4. 8,930,000 | 5. 12,800,000 | |

[19 の選択肢]

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 8,640,000 | 2. 8,740,000 | 3. 8,940,000 |
| 4. 10,584,000 | 5. 10,800,000 | |

[20 の選択肢]

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 3,996,000 | 2. 4,014,000 | 3. 4,104,000 |
| 4. 4,140,000 | 5. 4,696,000 | |

【原価計算編】

問題10 以下の文章のうち、空欄（ 21 ）～（ 23 ）に入れるべき最も適切な用語を、各選択肢の中から一つずつ番号で選びなさい。（各2点×3問）

農業原価計算の目的は、財務諸表作成に必要な原価の集計、価格計算に必要な原価資料の提供、原価管理に必要な原価資料の提供、（ 21 ）による計画と統制に必要な原価資料の提供、基本計画のために必要な原価情報の提供という5つである。

このうち、5つ目の基本計画設定目的は（ 22 ）と（ 23 ）に分類される。（ 22 ）は、所与の経営構造のもとにおいて個々独立の事項についてなされる随時的な意思決定をいう。具体的には、販売製品の組合せの決定、部品を自製するか外注するかの決定等が挙げられる。予算編成プロセスで行われる「個々の選択的事項に関する意思決定」は、概ねこの（ 22 ）に属する。農企業の経営管理者も、所与の生産規模の枠内において、さまざまな独立の選択的事項についての意意思決定を迫られることがある。その際に原価計算から得られる原価情報が有効となるのである。

（ 23 ）は、経営の基本構造の変革をともなう随時的な意思決定をいう。具体的には、新製品開発計画、設備投資計画、要員計画等が挙げられる。予算の体系の中で示される「資本支出計画ないし資本予算」が、概ねこの（ 23 ）に属する。農企業の経営管理者も、生産農地の拡大や農産物の加工設備の購入などの経営構造の変革をともなうような随時的な意思決定を迫られることがある。その際に原価計算から得られる原価情報が有効となるのである。

[21 の選択肢]

1. 予算
2. 原価
3. 費用
4. 損益
5. プログラム

[22 の選択肢]

1. 業務的意思決定
2. 原価
3. 費用
4. 損益
5. プログラム

[23 の選択肢]

1. 戦略的意思決定
2. 原価
3. 費用
4. 損益
5. プログラム

問題11 当月の材料の購入と払出に関する資料は以下のとおりである。

この〔資料〕に基づき、24：先入先出法、25：移動平均法、26：総平均法によって、当月の材料消費高を計算しなさい。(各2点×3問)

〔資料〕

4月1日：前月より126円/kgの材料20kgが繰り越された。

4月10日：132円/kgの材料30kgを掛購入した。

4月15日：材料30kgを消費した。

4月20日：135円/kgの材料40kgを掛購入した。

4月25日：材料25kgを消費した。

4月30日：実地棚卸の結果、材料35kgが認識された。

〔24の選択肢〕

1. 7,155円 2. 7,218円 3. 7,260円 4. 7,200円 5. 7,300円

〔25の選択肢〕

1. 7,155円 2. 7,218円 3. 7,260円 4. 7,200円 5. 7,300円

〔26の選択肢〕

1. 7,155円 2. 7,218円 3. 7,260円 4. 7,200円 5. 7,300円

問題12 以下の〔資料〕に基づいて、以下の（ 27 ）～（ 30 ）に入る金額を答えなさい。
 （各2点×4問）

〔資料〕

以下の資料に基づき、実際部門別配賦表を作成しなさい。なお、補助部門費は直接配賦法による予定配賦を実施することとする。

1. 部門別製造間接費実際発生額（第1次集計費）

育成部門 280,000円 肥育部門 260,000円 動力部門 160,000円
 修繕部門 80,000円

2. 月間の補助部門費予算額

動力部門 190,000円 修繕部門 95,000円

3. 補助部門の予定用役提供量

	育成部門	肥育部門	動力部門	修繕部門
動力供給量	500kwh	500kwh	— kwh	200kwh
修繕時間	15時間	10時間	5時間	— 時間

4. 補助部門の実際用役提供量

	育成部門	肥育部門	動力部門	修繕部門
動力供給量	500kwh	300kwh	— kwh	200kwh
修繕時間	12時間	8時間	5時間	— 時間

費目	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			育成部門	肥育部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		780,000	280,000	260,000	160,000	80,000
動力部門費			(27)			
修繕部門費				(28)		
配賦額合計						
製造部門費			(29)	(30)		

〔 27 の選択肢〕

1. 30,400円 2. 45,600円 3. 57,000円 4. 95,000円 5. 118,750円

〔 28 の選択肢〕

1. 30,400円 2. 45,600円 3. 57,000円 4. 95,000円 5. 118,750円

〔 29 の選択肢〕

1. 140,600円 2. 347,400円 3. 361,650円 4. 420,600円 5. 444,350円

〔 30 の選択肢〕

1. 140,600円 2. 347,400円 3. 361,650円 4. 420,600円 5. 444,350円

問題13 以下の資料に基づいて、先入先出法により、31：期末仕掛品原価および32：完成品総合原価を算定しなさい。(各2点×2問)

I 生産データ(単位：頭)

期首仕掛品	200
当月投入	<u>1,000</u>
計	1,200
副産物	100
期末仕掛品	<u>100</u>
完成品	<u>1,000</u>

II 原価データ(単位：円)

月初仕掛品原価	
素畜費	200,000
加工費	1,260,000
当月製造費用	
素畜費	900,000
加工費	26,040,000

- (注)1. 1頭を完成させるために要する飼育日数は、180日である。期首仕掛品は90日の飼育日数が経過していた。また、期末仕掛品は60日の飼育が完了していた。
2. 原料は工程始点で投入される。
3. 副産物は、飼育日数180日で発生するものである。副産物の評価額は、40,000円であった。
4. 計算結果に端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

[31 の選択肢]

1. 90,000円 2. 840,000円 3. 802,942円 4. 89,609円 5. 930,000円

[32 の選択肢]

1. 26,460,000円 2. 27,430,000円 3. 27,465,391円
4. 27,505,391円 5. 27,470,000円

問題14 養豚業および精肉販売を営む当社において、生産した豚から生じる各部位を連産品と捉え、各部位の製品原価を算定することを試行している。(各2点×3問)

以下の資料に基づいて、33：部位1、34：部位2、35：部位3の完成品単位原価を算定しなさい。

1. 結合原価（豚1頭当たりの原価）：1,376,000円

2. 部位1：200kg 部位2：600kg 部位3：400kg

3. その他のデータ

(1) 見積卸売価格は、部位1が2,500円/kg、部位2が1,500円/kg、部位3が800円/kgであった。

(2) 結合原価の按分にあたっては、見積卸売価格を用いた正常市価基準により計算を行うこととする。

(3) 各部位は追加加工の必要性はなく、そのまま枝肉として卸売されるものとする。

[33 の選択肢]

1. 600円 2. 640円 3. 1,200円 4. 1,800円 5. 2,000円

[34 の選択肢]

1. 600円 2. 640円 3. 1,200円 4. 1,800円 5. 2,000円

[35 の選択肢]

1. 600円 2. 640円 3. 1,200円 4. 1,800円 5. 2,000円

【管理会計編】

問題15 次の資料に基づき、36：安全（余裕）率および 37：損益分岐点比率を算定しなさい。
なお、端数が生じる場合には、%以下第3位を四捨五入して%以下第2位までで答えなさい。（各2点×2問）

〔資料〕

変動益単価：10,000円/a（60kg）

変動費単価：2,000円/a（60kg）

固定費：1,000,000円

予定作付面積：175a

〔36の選択肢〕

1. 28.57% 2. 30% 3. 50% 4. 70% 5. 71.43%

〔37の選択肢〕

1. 28.57% 2. 30% 3. 50% 4. 70% 5. 71.43%

問題16 次の資料に基づき、A作物・B作物・C作物のセールス・ミックスについて、①変動益の構成比率を3：2：1とした場合の損益分岐点変動益（38）、②販売数量の構成比率を3：2：1とした場合の損益分岐点変動益（39）をそれぞれ算定しなさい。（各2点×2問）

	A作物	B作物	C作物
販売単価	2,000円/kg	2,500円/kg	4,000円/kg
単位当たり変動費	1,000円/kg	1,750円/kg	1,600円/kg
単位当たり限界利益	1,000円/kg	750円/kg	2,400円/kg
共通固定費	1,242,000円		

〔38の選択肢〕

1. 2,760,000円 2. 2,700,000円 3. 3,000,000円
4. 3,200,000円 5. 3,500,000円

〔39の選択肢〕

1. 2,760,000円 2. 2,700,000円 3. 3,000,000円
4. 3,200,000円 5. 3,500,000円

問題17 当社は、農産物甲と農産物乙を製造販売しており、現在、利益が最大となる最適プロダクト・ミックスを決定しようとしている。農産物甲と農産物乙に関する資料は次のとおりである。最適なプロダクト・ミックスを求め、40：農産物甲の販売数量、41：農産物乙の販売数量を答えなさい。(各2点×2問)

	農産物甲	農産物乙
販売価格	1,000円/kg	1,000円/kg
変動費	400円/kg	500円/kg
限界利益	600円/kg	500円/kg
労働時間	2時間/kg	1時間/kg
最大労働時間	5,000時間/年	
販売可能量	3,000kg	3,000kg

[40の選択肢]

1. 0kg 2. 1,000kg 3. 2,000kg 4. 2,500kg 5. 3,000kg

[41の選択肢]

1. 0kg 2. 1,000kg 3. 2,000kg 4. 2,500kg 5. 3,000kg

問題18 大原農園(以下、当社)では、作物Aを年間10,000kg生産し、これを単価800円/kgで販売している。最近になって、これまで取引のなかった消費者から2,000kgの農産物Aを単価600円/kgで購入したいとの注文があった。そこで、以下の[資料]に基づき、42：当社はこの注文に応じるといくら有利か、43：農産物Aの価格低限を求めなさい。(各2点×2問)

[資料]

- 変動製造原価は400円/kg、固定製造原価は200円/kg(=2,000,000円÷10,000kg)である。
- 農産物Aの変動販売費(包装代)は50円/kg、固定販売費および一般管理費は年間300,000円である。
- 当社はこの注文に応じるだけの遊休生産能力を有する。
- この注文に応じても、通常の販売に影響を与えることはない。

[42の選択肢]

1. 0円 2. 100,000円 3. 300,000円 4. 400,000円 5. 500,000円

[43の選択肢]

1. 400円 2. 450円 3. 600円 4. 650円 5. 800円

問題19 現有設備案・取替案に関して、各年度の税引後キャッシュ・フローを把握し、44：現時点の税引後キャッシュ・フロー、45：1年後の税引後キャッシュ・フロー、46：2年後の税引後キャッシュ・フローを答えなさい。なお、マイナスの金額には「△」を付している。(各2点×3問)

1. 経済命数：2年、2年前に取得した農産物加工用設備と同じ生産能力を持つ新規設備に取り替えるべきか否かを検討中である。
2. 現有設備の2年前の取得原価は20,000千円である。この設備の減価償却は、法定耐用年数4年・残存価額は取得原価の10%の定額法により行う。現有設備の現時点における売却価額は9,000千円、2年後の処分価値は1,500千円と予想されるため、現時点で売却した場合は売却損が2,000千円、2年後に売却した場合は売却損が500千円発生する。
3. 新規設備の取得原価は24,000千円である。この設備の減価償却は、法定耐用年数4年・残存価額は取得原価の10%の定額法により行う。新規設備の2年後の売却価額は10,000千円、売却損が3,200千円発生すると予想される。なお、取替は第0期末(会計期末)に行われる。
4. 新規設備は性能が良いため、新規設備を利用することで、農産物加工に伴う年15,000千円の現金支出費用が年12,000千円へと減少するため、年々の現金支出費用が3,000千円節約される。
5. 税率は40%である。
6. 当社は黒字企業であり、この基調は向こう数年間変わらないものと予想される。

[44 の選択肢]

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. △14,200千円 | 2. 1,800千円 | 3. 2,160千円 |
| 4. 11,740千円 | 5. 14,200千円 | |

[45 の選択肢]

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. △14,200千円 | 2. 1,800千円 | 3. 2,160千円 |
| 4. 11,740千円 | 5. 14,200千円 | |

[46 の選択肢]

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. △14,200千円 | 2. 1,800千円 | 3. 2,160千円 |
| 4. 11,740千円 | 5. 14,200千円 | |

問題20 次の〔資料〕に基づき、ABCによって製造間接費配賦計算を行い、47：タマネギ、48：サツマイモの生産原価を算定しなさい。(各2点×2問)

〔資料〕

1. 直接費に関する資料

	タマネギ	テンサイ	サツマイモ
直接材料費	120,000 円	150,000 円	80,000 円
直接労務費	80,000 円	50,000 円	40,000 円

2. 間接費に関する資料

(1) 各間接費の金額

費 目	農薬散布活動	害虫駆除活動	梱包活動
金 額	80,000 円	390,000 円	40,000 円

(2) 原価作用因

	タマネギ	テンサイ	サツマイモ
農薬散布活動	5 回	4 回	1 回
害虫駆除活動	2 回	10 回	1 回
梱包活動	8 回	6 回	2 回

〔 47 の選択肢〕

1. 163,000 円 2. 320,000 円 3. 467,000 円 4. 547,000 円 5. 587,000 円

〔 48 の選択肢〕

1. 163,000 円 2. 320,000 円 3. 467,000 円 4. 547,000 円 5. 587,000 円

問題21 当社は畜産農業を営んでおり、標準原価計算を採用している。49:期末仕掛品原価と50:作業時間差異を算定しなさい。なお、不利差異の場合には「△」を付している。(各2点×2問)

1. 標準原価カード (製品1頭あたり)

	単 価	消 費 量	原価標準
素 畜 費	3,000 円/頭	1 頭	3,000 円
直接労務費	600 円/h	0.5 h/日×180 日	54,000 円
製造間接費	800 円/h	0.5 h/日×180 日	<u>72,000 円</u>
			<u><u>129,000 円</u></u>

2. 当月生産データ (素畜は始点で投入している)

期首仕掛品	50 頭
当月投入	<u>400 頭</u>
計	450 頭
期末仕掛品	<u>100 頭</u>
完 成 品	<u><u>350 頭</u></u>

3. 1頭の畜産物を完成させるためには180日の飼育日数を要する。期首仕掛品は期首の段階で108日の飼育日数が経過している。また、期末仕掛品は90日の飼育が終了している。

4. 当月原価実績

素 畜 費	1,206,000 円 (3,015 円/頭×400 頭)
直接労務費	20,267,500 円 (605 円/h×33,500 h)

[49 の選択肢]

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1. 3,930,000 円 | 2. 6,450,000 円 | 3. 6,600,000 円 |
| 4. 12,900,000 円 | 5. 45,150,000 円 | |

[50 の選択肢]

- | | | |
|---------------|---------------|--------|
| 1. △167,500 円 | 2. △120,000 円 | 3. 0 円 |
| 4. 120,000 円 | 5. 167,500 円 | |